

厚生労働行政推進調査事業費補助金（肝炎等克服政策研究事業）  
分担研究報告書

静岡県における肝炎医療コーディネーターの活動と問題点に関する調査

研究分担者 玄田拓哉  
順天堂大学医学部附属静岡病院消化器内科 教授

**研究要旨:** 静岡県の肝炎医療コーディネーターの養成状況と活動の調査を行った。平成 30 年、令和元年の養成研修では合計 301 人の新規コーディネーターが養成された。また、令和元年からはフォローアップ研修も開始され、他県の優良事例の報告も行われた。これまで養成された肝炎医療コーディネーターは主に市町保健師と拠点病院看護師であり、所属先に偏りが見られた。また、所属する職場により活動内容や抱える問題点が異なるため、肝炎医療コーディネーターの所属先や業務内容に応じた細かい情報提供や、活動支援資材の開発が必要と考えられた。

#### A. 研究目的

静岡県内において活動する肝炎医療コーディネーターの養成状況と活動内容把握を行った。

#### B. 研究方法

静岡県で行われた肝炎医療コーディネーター研修会参加者の背景を調査し、と活動内容と問題点の聴き取りを行った。

#### C. 研究結果

静岡県では平成 23 年の肝炎対策基本指針策定に伴い「地域肝炎治療支援者（コーディネーター）」養成研修が開始され、平成 27 年までに延べ 354 人が研修を修了した。その後、平成 28 年の肝炎対策基本指針の改正に伴い、肝炎医療コーディネーター育成強化が盛り込まれ、平成 30 年より名称を変更して「肝炎医療コーディネーター養成研修会」が再開された。平成 30 年の 2 回の養成研修では合計 166 人の新規コーディネーターが養成された。令和元年には 2 回の新規養成研修会と 2 回のフォローアップ研修会が行われ、それぞれ 135 人、40 人が参加した。これまで養成されたコーディネーターの職種は看護師が 95 名（31.6%）と最も多く、次が保健師の 73 名（24.3%）であった。所属勤務先では静岡県肝疾患拠点病院所属が 165 名（54.8%）と最多であり、次が市町や保健所などの行政機関所属 69 名（22.9%）であった。一方、肝疾患かかりつけ医所属のコーディネーターは 31 名（10.3%）にとどまり、静岡県下に 281 医療機関が指定されている肝疾患かかりつけ医における肝炎医療コーディネーター整備が問題点と考えられた。同様に、健保組合からの参加者も 18 名（5.9%）と少なかったが、令和元年の研修参加者が 18 名中 14 名であり増加傾向が認められた。現在静岡県内で

行われている実際の肝炎医療コーディネーターの活動としては、拠点病院において肝疾患相談支援センターにおける相談業務や肝臓病教室開催、院内感染症対策の一環としての医療従事者への肝炎ウイルスに対する教育講演などが行われていた。令和元年には拠点病院事業として行われた講演会に付随して肝炎医療コーディネーターによる患者相談会も行われていた。行政に所属する肝炎医療コーディネーターはウイルス検査陽性者への受診勧奨が主なものであった。フォローアップ研修では山口県の肝炎医療コーディネーターによる他県の優良事例の報告も行われた。

#### D. 考察

静岡県でこれまで養成された肝炎医療コーディネーターは主に市町行政所属の保健師と拠点病院所属の看護師である。両者の受けた肝炎医療コーディネーター研修は同一であるが、所属する職場により活動内容や抱える問題は異なっていた。このため、肝炎医療コーディネーター研修では、肝炎・肝疾患に関する基本的知識のアップデートに加えて、肝炎医療コーディネーターの所属先や業務内容に応じた細かい情報提供や、活動支援資材の開発が必要と考えられた。

#### E. 結論

肝炎医療コーディネーターは職場によりニーズや問題点が異なるため、活動内容に応じたきめ細かい情報提供や支援体制が必要と考えられる。

#### F. 健康危険情報

なし

#### G. 研究発表

1. 論文発表  
なし
2. 学会発表

谷 典子、玄田拓哉、小林良正. 静岡県における肝炎コーディネーター養成状況と実際の活動. 第55回日本肝臓学会総会. 2019年5月30日, 東京.

#### **H. 知的財産権の出願・登録状況**

1. 特許取得 なし
2. 実用新案登録 なし
3. その他 なし